

教育はいま

第24号

研究テーマ

道徳教育の充実に関する研究（三年次）

～「考え、議論する道徳」の授業づくりに向けた指導方法と評価の工夫を通して～



昨年3月、新学習指導要領が公示され、道徳は「特別の教科 道徳」として、小学校では平成30年度、中学校では平成31年度から全面実施となります。

こうした状況を踏まえ、当センターでは平成27年度より3年計画で道徳教育の充実に関する調査研究を行ってまいりました。最終年となる今年度はこれまでの「考え、議論する道徳の授業づくり」に「評価」の視点を加え、指導と評価の一体化を柱とした研究を進めてきました。

この「教育はいま」第24号は、3年間の研究の集大成として、各校の先生方が道徳の授業づくりや評価で悩んだときに、その解決の糸口となる事例を数多く盛り込みました。是非、お手元において日々の実践に役立てていただければ幸いです。

最後になりましたが、研究の推進役として自ら道徳の授業改善に取り組み、その貴重な実践データを提供いただいた調査研究委員の皆様、また3年間にわたりアドバイザーとして御指導御助言をいただきました、武庫川女子大学 押谷由夫教授にこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。

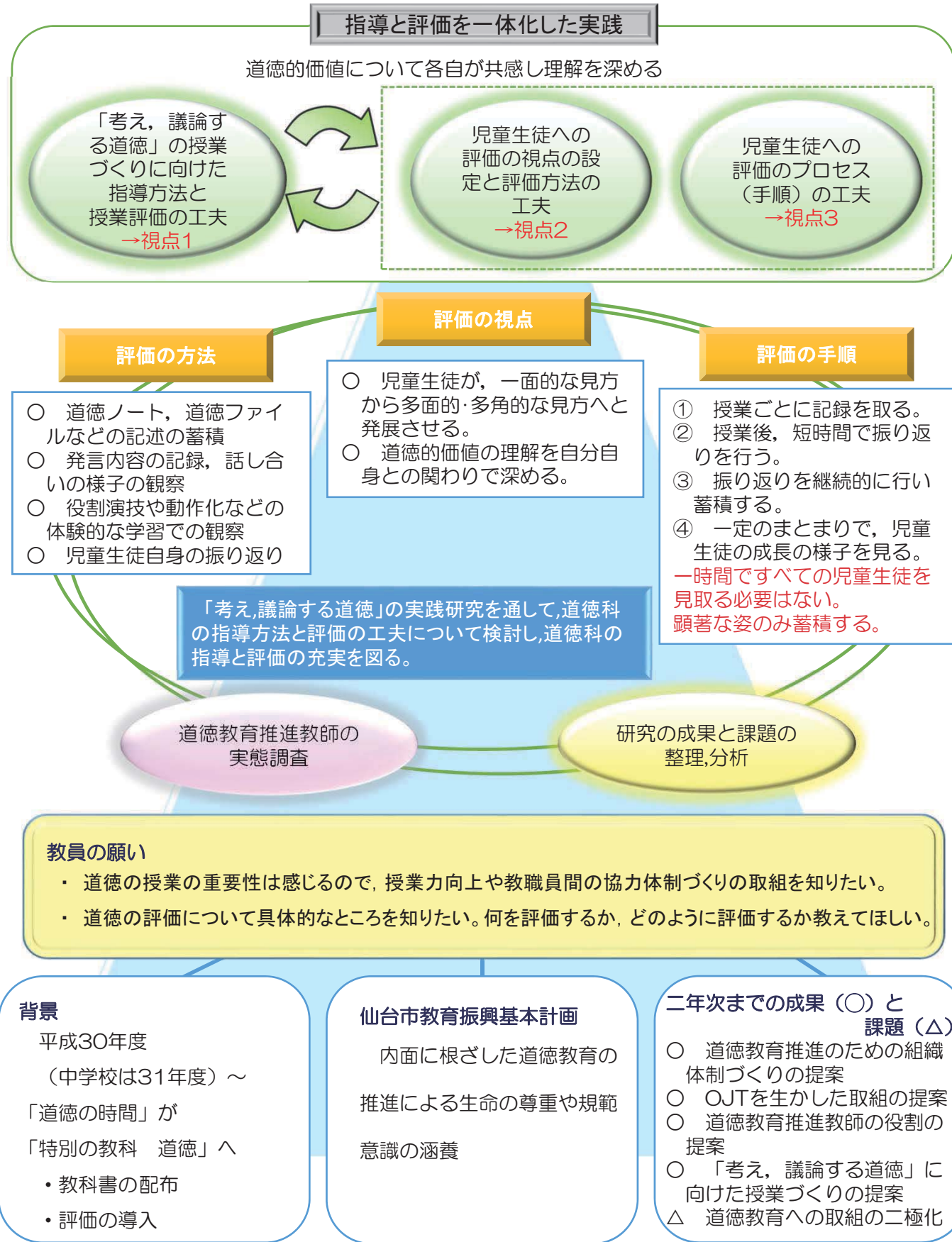
仙台市教育センター 所長 三塚 修

教育センターはOJTで学び続ける教職員を応援します

研究テーマ

「道徳教育の充実に関する研究」

～「考え、議論する道徳」の授業づくりに向けた指導方法と評価の工夫を通して～



視点1 授業改善につなぐ指導方法と授業評価の工夫

小学校実践例

- 1 主題名 みんな仲間 道徳の内容C-13 公正、公平、社会正義
- 2 資料名 同じ仲間だから 出典：文部科学省「わたしたちの道徳」
- 3 本時のねらい 誰に対しても分け隔てなく接するための判断力を高める。
- 4 指導方法の工夫

ポイント1

「もしもの世界」を設定し、不公平な判断がもたらす周囲への影響を考える中心発問の工夫

ポイント2

不公平な判断が信頼関係や集団活動に支障を来し、いじめにつながることに気付くことができる基本発問の工夫

ポイント3

道徳的価値を自分との関わりで捉え、日常生活につなげる教材の工夫

5 本時の学習過程

	学習活動・主な発問	児童の心の動き
導入	1 資料に興味を持たせ判断場面に意識を向ける。	
	2 教師の範読を聞き、場面を押さえる。	
展開	3 話し合う。 もしも、とも子がひろしに賛成し、光夫が体育を休み、2組が競技で勝ったとき、光夫、ひろし、みんなはどんな気持ちか。	【光夫】 勝ててうれしいけど僕は参加してないから、僕も参加して勝てたらうれしかった。
	【ひろし】 勝てたから光夫を休ませて良かった。	なんで休まなければならなかったんだろう。
	【みんな】 やっと2組が勝った。光夫さんを休ませて良かった。	初めて勝ったぞ。光夫がいないおかげで勝った。次も休ませよう。
	このクラスってどう思う？	居心地が悪い。ひろしが光夫を仲間はずれにしようとしていることを考えているから。
	4 今日の話合いをまとめる。	心がぎすぎすしているから、いじめも増えてしまう。
	5 自己を振り返る。 迷ったけど「仲間だから」と考えたことは？	友達に「あの子とは関わらないで」と言われたけど、だめだよと注意できた。
終末	6 友達チェーンをBGMに合わせて見る。	

6 本時の授業評価(授業改善の視点)

- ・ 不公平な判断をしたことの影響を三者の立場で考えられるような発問だったか。
- ・ 公正、公平、社会正義について、自分自身との関わりで考えられるような発問だったか。

視点1 授業改善につなぐ指導方法と授業評価の工夫

中学校実践例

- 1 主題名 志高く生きる〔A 希望と勇気、克己と強い意志〕
- 2 資料名 「風に立つライオン」 出典：中学生の道徳3 自分をのばす（廣済堂あかつき）
- 3 本時のねらい
「風に向かって立つライオンでありたい」とは、どう生き方なのかを考えるを通して、志高く生き、困難や失敗を乗り越えて、自分の人生を切り拓き挑戦し続けようとする道徳的実践意欲を培う。

4 指導方法の工夫

ポイント1

自分と違う考えや立場を理解し、自分の考えを深めるためのグループ活動の工夫

ポイント2

主人公の悩み、葛藤に着目し、理想を追い求めることの素晴らしさを実感できる発問の工夫

ポイント3

主人公の生き方から自分の将来の生き方につなげるような説話の工夫

5 本時の学習過程

	学習活動・主な発問	生徒の心の動き
導入	1 登場人物の立場を想像する。	
展開	2 資料を読む。 3 ペアで話し合う。 【発問】 風に向かって立つライオンでありたいとは、 どうい姿をいうのだろう。	自分の夢をかなえるために挑戦している。 どんな困難にも立ち向かって自分らしく堂々と生きたい。
	4 グループで話し合う。 【中心発問】 僕が、自分の理想を実現させようとしたとき、大切にしたい心は何だろう。	どんなに難しいことがあってもチャレンジする。 自分の理想に自信を持つ。あきらめない心。 あきらめることも大事？ あきらめる？あきらめない？ 自分の理想を実現させるためにどんなことでもあきらめられる心。 幸せになるためにはね。
終末	5 グループで出た考えを発表する。 ポイント3	C：まっすぐな心を持つ。探究心を大切にする。 C：強い心を持つ。信念を曲げない。
	6 教師が説話をする。 7 今日の授業を振り返って、ワークシートに記入する。	自分は今、部活の強い学校を選ぶか、学業を優先させるか悩んでいるけど、どちらが大切か自分の気持ちに嘘をつかないことが大切だと思った。

6 本時の授業評価（授業改善の視点）

- ・自分と違う意見や立場について考えられるような対話の場となっていたか。
- ・授業を通して、これから自分が大切にしたいことを考えられるような発問だったか。

視点2 児童生徒への評価方法の工夫

道徳ノート、ワークシートの工夫

【ワークシート】 友達の考えを記入することも可。

【ワークシート】 自己評価の欄を設ける。

汎用ワークシート書く内容を絞る。

きょうの どうとくじゅぎょうは どうでしたか。□に ◎○△をかきましょう。
◎ そう おもう (たくさん あった)
○ ふつう
△ あまり そう おもわない (あまり なかった)

きょうの おはなし (じゅぎょう) は、わかりやすかったですか。
おばあさんが ごみひろいを しているのを みた 「ぼく」の きもちが わかりましたか。
はなしあいの とき、じぶんの かんがえを はっぴょうしたいとおもいましたか。

名簿、座席表の工夫

児童生徒の学習の様子を記入する。

短言葉で、簡単に。

欲張らずに1時間に2~3人程度を記入する。

チェックなどマークの活用。

毎時間の記録を重ねてパラパラ漫画のようにめくってみると・・・

記録のない子供がいることが見えてきます。次時はその子を中心に学習の様子を見取っていくことができます。

その他記録の工夫

板書を利用する例

おたよりを利用する例

略案を利用する例

視点3 評価のプロセス（手順）の工夫

A先生の例

道徳ノート、ワークシートの記述の蓄積から子供(Hさん)の変容を見取る

【第3回】

授業の感想のみの記述

【第10回】

【第18回】

【第25回】

自分のこととして考えている記述

10回目までは授業の感想のみを書いていたHさんだけ、18回目あたりから自分のこととして考えているみたいね。

Hさん (教師のメモ) 友達の発表を聞いて考えを広げた。

友達の考えをしっかりと聞いていたから自分の考えが持てたのね。

- ・はじめは資料の感想だけだったけど・・・
- ・発表は苦手だけど・・・
- ・友達の役割演技を見て～と考えていたんだ。
- ・立ち止まって考えているな。

B先生の例

略案に、児童生徒の発言、授業中の様子などをメモ

略案

生き物を大切にしたい。

名簿

転記

発表あり。

ポイント

評価のポイント(例)

- ・自分との関わりで考えている。
- ・友達の考えを聞いて、自分の考えを深めている。
- ・自分の考えを見直している。
- ・自分と違う立場の考えを理解している。
- ・学習した道徳的価値に関わって、少しでも自分をよくしていこうとしている。

付箋のメモからSさんの授業での様子や成長の様子が分かるぞ。

メモが全くない子はワークシートの記述を参考にしよう。

他にもこんな例が・・・

児童生徒のよさを見取る方法は一つではありません。担任の先生がやりやすい、継続しやすい方法を見つけましょう。

ネームプレートを貼って一人一人の考えを記録する。

【板書の写真記録から】

道徳授業「生命の尊さ」

児童生徒の記述を取り上げ蓄積する。

【おたよりに取り上げた児童生徒の感想から】

児童生徒の発言を記録する。

【略案へのメモから】

ポイント

一つの方法で評価するのではなく、いくつかの方法を組み合わせることで、児童生徒の姿がより明確になり、多面的・多角的な評価へとつなげることができます。

担任外の関わり例



T2として参加しながら授業サポート

学年で協働する例

学年	内容
1年	道徳学習シート
2年	道徳学習シート
3年	道徳学習シート
4年	道徳学習シート
5年	道徳学習シート
6年	道徳学習シート

学年でワークシートや指導案を共有して授業



学年で指導方法や評価を検討

自分を振り返る時間が確保されていてよかったね。

グループでの話し合いで何を話すのか絞るとよかったね。

自分の考えを書けない子への先生の声掛けが的確だったのでは。

ワークシートはもうひと工夫かな。

これから求められること～よりよい指導と評価のために～

- 児童生徒が主体的に自己の生き方についての考えを深める「考え、議論する道徳」の授業づくりを工夫する。
→ 児童生徒の学習状況や成長の様子を的確に把握した上で、教師も授業づくりを工夫しましょう。



指導と評価を一体化することで、よりよい授業づくりにつながっていく

- 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとめ（学期ごと、年間を通して）を踏まえて評価をする。
→ 授業での児童生徒の記述や授業中の様子等を蓄積して、成長を見取りましょう。
- 他との比較ではなく、いかに成長したかを積極的に認め励ます個人内評価である。
→ 学習の結果ではなく、学習の過程で児童生徒がどのように学習に取り組んだか、どんな考えを示したかを見取りましょう。



児童生徒にとって、自らの成長を実感し意欲の向上につながる評価となる

研究アドバイザー助言



【仙台から道徳教育の世界発信を】

未曾有の東日本大震災から7年。忘れていけないことは、世界160カ国・地域以上から援助を頂いたことです。そのご恩返しの第一は、子供たちが、心豊かに元気に育っている姿を世界の人々に示していくことです。

道徳教育は、人間としてどう生きるかを自分自身に問い掛け、追い求めることです。その要として設置された「特別の教科 道徳」は、「道徳的価値の理解」と「自己を見つめる」と「物事を多面的・多角的に考える」ことを絡ませて、「人間としての自分らしい生き方についての考えを深め」、日常生活やこれからの生き方において、主体的に追い求め、自己を向上させていける力を身に付けるためのものです。「特別の教科 道徳」では、子供たち一人一人が、自分の中にあるよりよく生きようとする心を、いかに目覚めさせ、伸ばしているかを評価します。つまり、「特別の教科 道徳」は、子供たち一人一人を大切に教育の根幹を担うのです。

この3年間、志高き先生方が集い、この理念をどのように具体化するかについて研修を積み重ねてこられました。その成果がこの冊子にまとめられています。道徳教育はよりよく生きる喜びを求めるものです。学んだり取り組んだりすること自体に楽しさと喜びを見いだせることが大切です。研究はまさにそのようなものでした。「特別の教科 道徳」の授業が、先生方と子供たちが楽しみつつよりよく生きる喜びを共有し、豊かな心を育んでいくものになりますことを念じます。

視野を世界に広げ、大地（ふるさと）にしっかり足を下ろし、御恩に応えるべく高い志を持って、自分自身と社会をひらいていく子供たちの姿を、東北の中心都市仙台から世界に発信していこうではありませんか。

【平成29年度調査研究委員会】

研究アドバイザー 押谷 由夫（武庫川女子大学大学院 教授）
委員長 佐藤 郷美（南吉成中 校長） 副委員長 阿部 千幸（将監小 教頭）
研究委員 千葉 梨絵（東仙台小） 大宮 建（八木山小） 石山 宏美（田子小）
我妻 美知子（南光台小） 青沼 一岳（七郷中） 庄子 登世（西山中）
高橋 由理（吉成中） 永塚 悦子（八乙女中）

教育研究紀要「教育はいま」第24号

発行日 平成30年3月31日

発行者 仙台市教育センター所長 三塚 修

所在地 983-0825 仙台市宮城野区鶴ヶ谷北一丁目19番1号

Tel 022-251-7441（代表） Fax 022-251-7486

Web <http://www.sendai-c.ed.jp> 代表E-mail info-web@sendai-c.ed.jp